

## 参考資料

(本書は米国時間 2021 年 2 月 3 日に米国で発表済みの英文プレスリリースの和訳です。  
解釈に相違が生じた際には、英語版を基準とします)

2021 年 2 月 4 日

### Aflac Incorporated は 2020 年度第 4 四半期の業績を発表 2020 年度第 4 四半期の純利益は 9 億 5,100 万ドル 2021 年度第 1 四半期現金配当の 17.9%増配を再度明示

Aflac Incorporated (以下、「当社」)は、本日、2020 年度第 4 四半期の業績を以下のとおり発表しました。

当四半期の収益合計は、前年同期の 56 億ドルから 59 億ドルとなりました。当期純利益は、前年同期の 7 億 8,200 万ドル(希薄化後 1 株当たり 1.06ドル)から 9 億 5,100 万ドル(同 1.35ドル)となりました。この増益は、主として資産運用益(純額)の増加によるものです。

前年同期の当期純利益には、3,400 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.05ドル)の税引前資産運用益(純額)が含まれていたのに対し、当四半期の当期純利益には、2 億 6,800 万ドル(同 0.38ドル)の税引前資産運用益(純額)が含まれていました。これらの利益は、調整後利益から除外されています。この資産運用益(純額)は、主として Trupanion 社への投資による持分証券の公正価値の増加 2 億 9,000 万ドルならびに一部のデリバティブ及び外国為替取引からの利益(純額)2,700 万ドルが、売却及び償還による損失(純額)2,800 万ドルにより相殺され、さらに当社の現在予想信用損失(CECL)に係る引当金の増加 2,100 万ドルが発生したことによりもたらされたものです。

当四半期の平均円/ドル為替レート\*は、前年同期の 1ドル 108.79 円から、4.0%円高ドル安の 1ドル 104.57 円となりました。通年の平均円/ドル為替レートは、前年の 1ドル 109.07 円から、2.1%円高ドル安の 1ドル 106.86 円となりました。

運用資産及び現金・預金合計は、2019 年 12 月 31 日現在の 1,381 億ドルから、2020 年 12 月 31 日現在では 1,498 億ドルとなりました。当四半期、当社は 5 億ドル相当(1,180 万株)の自己株式を取得しました。通年では、当社は 15 億ドル相当(3,790 万株)の自己株式を取得しました。2020 年 12 月 31 日現在、当社の自己株式取得承認枠の残枠は、9,920 万株となっています。

株主持分は、2019 年 12 月 31 日現在が 290 億ドル(1 株当たり 39.84ドル)であったのに対して、2020 年 12 月 31 日現在では 336 億ドル(同 48.46ドル)でした。株主持分に含まれる保有有価証券及びデリバティブに係る未実現益(純額)は、2019 年 12 月 31 日現在が 85 億ドルであったのに対して、当四半期末では 103 億ドルでした。株主持分に含まれる外貨換算未実現損は、2019 年 12 月 31 日現在が 16 億ドルであったのに対して、当四半期末では 11 億ドルでした。当四半期における平均株主資本利益率は、年率換算で 11.5%、通年では 15.3%でした。

当四半期の調整後利益\*は、前年同期の 7 億 5,600 万ドルから 0.1%減少し、7 億 5,500 万ドルとなりました。調整後利益は、オルタナティブ投資による税引前変動投資収益 6,300 万ドルを含んでおり、これは長期利益予想を 4,700 万ドル上回るものでしたが、大半は、以前に公表した希望退職プランに係る費用の 4,300 万ドルにより相殺されました。当四半期の希薄化後 1 株当たり調整

後利益\*は3.9%増加し、1.07ドルとなりました。為替レートが円高ドル安になったことによる当四半期の希薄化後1株当たり調整後利益への影響は、0.02ドルでした。

2020年度通年の収益合計は、前年の223億ドルから0.7%減少し221億ドルとなりました。通年の当期純利益は、前年の33億ドル(希薄化後1株当たり4.43ドル)から48億ドル(同6.67ドル)となりました。通年の調整後利益は、前年が33億ドル(希薄化後1株当たり4.44ドル)であったのに対して、当年は36億ドル(同4.96ドル)となりました。為替レートが円高ドル安になったことによる、希薄化後1株当たりの好影響0.04ドルを除く、通年の希薄化後1株当たり調整後利益は10.8%増加し、4.92ドルとなりました。

その他の包括(損)益累計額(AOCI)を除く株主持分\*は、2019年12月31日現在が223億ドル(1株当たり30.74ドル)であったのに対して、2020年12月31日現在は246億ドル(同35.56ドル)となりました。当四半期の為替変動の影響を除く調整後株主資本利益率\*は、年率換算で12.1%、通年では15.0%でした。

### アフラック(日本)

アフラック(日本)の当四半期の円ベースの保険料収入(純額)は、主として短期払商品の払済化及びパンデミックの状況の影響による販売面の制約により、前年同期比3.5%減の3,338億円となりました。調整後投資収益(純額)\*は、主としてローンポートフォリオ及びオルタナティブ資産からの収益増により、11.9%増の751億円となりました。当四半期の円ベースの収益合計は、1.0%減少し4,098億円となりました。当四半期の円ベースの税引前調整後利益は、報告ベースでは4.2%増加しましたが、これは部分的に、パンデミックの状況に伴う給付活動の低下による準備金の取崩しが、第三分野保険の保険金給付金比率の低下につながったことによるものです。為替変動の影響を除く、当四半期の円ベースの税引前調整後利益は6.4%増加しました。日本セグメントの税引前調整後利益率は、前年同期が19.8%であったのに対して、当四半期は20.9%となりました。この利益率の上昇は、主として保険金給付金比率と投資収益(純額)の改善によるものです。

通年の円ベースの保険料収入(純額)は、前年比2.8%減の1兆4,000億円となりました。調整後投資収益(純額)は、4.4%増の2,831億円となりました。円ベースの収益合計は、1.7%減の1兆6,000億円となりました。税引前調整後利益は、前年比2.0%減の3,479億円となりました。

当四半期のドルベースの保険料収入(純額)は、0.5%増の32億ドルとなりました。調整後投資収益(純額)は、16.7%増の7億2,100万ドルとなりました。収益合計は、3.0%増の39億ドルとなりました。税引前調整後利益は、8.5%増の8億2,100万ドルとなりました。

通年のドルベースの保険料収入(純額)は、前年比0.8%減の127億ドルとなりました。調整後投資収益(純額)は6.5%増の27億ドルとなりました。収益合計は、0.4%増の154億ドルとなりました。税引前調整後利益は、前年比0.1%増の33億ドルとなりました。

当四半期の新契約年換算保険料(販売)合計は、22.2%減の144億円(1億3,800万ドル)となりました。通年の販売合計は、36.2%減の509億円(4億7,700万ドル)となりました。こうした販売の減少は、主として、パンデミックの状況に伴う営業活動の低下による影響を反映したものです。

## アフラック(米国)

アフラック(米国)の当四半期の保険料収入(純額)は、主としてパンデミックの状況による販売面の制約により、2.3%減の14億ドルとなりました。調整後投資収益(純額)は、オルタナティブ投資からの変動投資収益の増加により、1.1%増の1億8,200万ドルとなりました。収益合計は、主としてArgus社からの第三者管理手数料によるその他収益2,500万ドル及び投資収益(純額)の増加により一部相殺されたものの、主として営業活動の低下による保険料収入の減少により、1.3%減の16億ドルとなりました。当四半期の税引前調整後利益は、新型コロナウイルスにより発生した給付に加えて、主として以前に公表した希望退職プランに係る費用を含む事業費の増加及び収益の減少を反映して、前年同期比32.0%減の1億8,700万ドルとなりました。当四半期の米国セグメントの税引前調整後利益率は、前年同期の16.8%から11.6%となりました。

通年の保険料収入(純額)は、0.9%減の58億ドルとなりました。調整後投資収益(純額)は、2.1%減の7億500万ドルとなりました。収益合計は、主としてArgus社からの第三者管理手数料によるその他収益1億200万ドルを反映し、0.2%増の66億ドルとなりました。税引前調整後利益は、前年比0.3%減の13億ドルとなりました。

アフラック(米国)の当四半期の販売は、27.2%減の3億8,800万ドルとなりました。通年の新規販売合計は、パンデミックの状況の影響が続いたことを反映し、30.8%減の11億ドルとなりました。

## 全社(アフラック(日本)及びアフラック(米国)を除く)及びその他

当四半期の収益合計は、主として調整後投資収益(純額)が1,000万ドル減少し4,000万ドルとなったことにより、13.2%減の9,200万ドルとなりました。税引前調整後利益は、前年同期が900万ドルの損失であったのに対して、当四半期は、4,700万ドルの損失でした。これは主として、調整後投資収益(純額)の減少に加えて、希望退職プランに係る費用を含むその他調整後費用の増加と本年度初期の社債発行に伴う支払利息の増加を反映しています。

通年の収益合計は、主として、販売停止商品の保有契約の減少によって、保険料収入合計が減少したことにより、2.3%減の3億8,400万ドルとなりました。税引前調整後利益は、前年が7,200万ドルの損失であったのに対して、本年は1億1,500万ドルの損失でした。これは主として、支払利息及びその他調整後費用の増加を反映しています。

## 現金配当

取締役会は、2021年度第1四半期支払いの四半期現金配当を1株当たり0.33ドルとすることを決定しました。この現金配当は、2021年2月17日の営業時間終了時点の登録株主に対し、2021年3月1日に支払われます。

## 今後の見通し

当社の業績について、当社会長兼最高経営責任者であるダニエル・P・エイモスは次のように述べています。

「新型コロナウイルス感染の波に直面し、全世界に変異種が出現する中で、私たちが事業を行っているすべての関係者の安全と健康が当社の最優先事項であることを胸に、慎重な姿勢をとり続けてまいります。ワクチンの接種が進みつつありますが、多くの人々は、引き続き生涯で最も厳しい時を過ごしています。影響を受けているすべての方々に対して、心からお見舞い申し上げます。」

「2020年は困難な一年でした。当社は、パンデミックの状況を乗り切るために、初期の段階では当社で働く人々を守るために決然とした行動をとり、さらに、強固な財務基盤と業務運営の確保や、デジタルとバーチャルへの投資を進めて販売基盤を強化し、将来の成長に向けて当社をより良いポジションに置くことなど、様々な施策を実行しました。日米両国とも、販売は影響を受けましたが、その中であっても、当社のプラットフォームに対する投資の加速に伴う負担を吸収しつつ、強力な利益を実現しました。社会的責任の遂行を旨とする当社の企業文化と一致して、当社はESGに係るディスクロージャーを拡充しました。当社は、ESGに特化した報告書において、当社のESGへの取組み方針を概説するとともに、公式報告の枠組みを採用し、ESGの格付けサービスから選択的な格上げを受けました。」

「パンデミックの状況は、日米ともに、当社の販売実績ならびに保険料収入及び収益に影響を与え続けています。こうしたパンデミックの状況は、2021年上半期を通じて持続するものと、当社は予想しています。過去2四半期において、対前期比ベースではわずかながら回復を示していますが、対面販売にとっての環境が好転すれば、この傾向は続くものと思っています。同時に、日米両国とも、経済情勢と給付活動の不確実性に直面する中で、バーチャル及びデジタルの販売手法への投資を進め、新商品の販売を推進していきます。たとえば、日本では医療新商品を発売し、米国では、チュールヒ・ノースアメリカからの団体保障事業の買収を完了、さらに、アフラック歯科・眼科保険の全米展開を発表しました。当社では、引き続きワクチンの接種状況をモニターしていますが、本年下半期については、引き続き期待を持っています。下半期は、正常化に向けてゆるやかに回復し、2020年に実行した投資の成果が顕在化するものと考えています。」

「常にそうですが、当社は周到的な流動性及び資本管理を徹底しています。これには、日米両国でご契約者の皆さまのために強力な自己資本比率を維持することが含まれています。言うまでもないことですが、当社は増配記録を非常に重んじています。38年連続増配を達成した後、昨年11月に当社が発表した、本年度第1四半期配当の17.9%増配を取締役会が決定したことを、私は喜ばしく思っています。当社の増配記録は、その強力な資本とキャッシュ・フローに裏打ちされています。同時に当社は、機動的なアプローチにより市場での自己株式の取得を継続するとともに、当社のプラットフォームに対して行った成長投資を完全なものとするべく、引き続きこれに注力していきます。これらにより、当社は現在の強いポジションと主導力を維持しながら、この難局を切り抜けてまいります。」

\*外国為替及びその財務諸表への影響についての説明、本書において用いられている米国GAAP外の財務指標の定義ならびに米国GAAP外の財務指標から最も比較可能な米国GAAPの財務指標への調整については、後述の「米国会計基準(GAAP)外の財務指標」を参照ください。

## アフラック・インコーポレーテッドについて

アフラック・インコーポレーテッド(ニューヨーク証券取引所のティッカー・シンボル AFL)は、フォーチュン 500 社の 1 社であり、日米の子会社を通じて、5,000 万人以上の方々に保障を提供し、ご契約者の皆さまが病気や怪我をした時に、給付金を現金で迅速にお支払いすることで、両国において補完保険のリーディング・カンパニーとなっています。60 年以上にわたって、アフラック・インコーポレーテッドの子会社の保険商品は、ご契約者の皆さまが経済的な負担を抱えずに回復に専念する機会を提供してきました。アフラック生命保険株式会社は、日本における医療保険・がん保険の最大手で、4 世帯に 1 世帯がその保険に加入しています。『フォーチュン』誌は、アフラックを 20 年連続で「全米で最も働きがいのある企業 100 社」に選出しています。またアフラックは、『Ethisphere』誌から 14 年連続で「世界で最も倫理観の高い企業」の 1 社に選出されています。2021 年、『フォーチュン』誌は、20 回目となる「世界で最も賞賛すべき企業」の 1 社にアフラック・インコーポレーテッドを選出し、ブルームバーグは、アフラック・インコーポレーテッドを二度にわたり男女平等指数の対象企業に加えました。この指数は、方針の策定、表明、及び透明性を通じて男女平等への支援にコミットしている公開企業の財務業績の推移を追跡するものです。通常健康保険が保障しない出費にどのようにお役立ていただくかについての情報は、当社のウェブサイトをご覧ください。

当四半期の業績数値の補足資料(Financial Analysts Briefing (FAB) supplement)は、当社のウェブサイトから入手可能です。

Aflac Incorporated は、当四半期業績報告の電話会議の様様を 2021 年 2 月 4 日(木曜日)午前 8 時 00 分(米国東部時間)に当社のウェブサイト上で公開します。

**Aflac Incorporated 要約連結損益計算書**  
 (単位:百万ドル。ただし、株式数及び1株当たりの数字を除く—無監査)

**12月31日に終了した3ヶ月間:**

	<u>2020</u>	<u>2019</u>	<u>増減率</u>
収益合計	5,913	5,603	5.5%
保険金給付金(純額)	2,974	2,985	-0.4%
新契約費及び事業費合計	1,723	1,560	10.4%
税引前当期純利益	1,216	1,058	14.9%
法人税等	265	276	
当期純利益	951	782	21.6%
基本1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.36	1.07	27.1%
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.35	1.06	27.4%
1株当たり当期純利益計算に用いた普通株式数(単位:千株)			
基本	701,016	733,358	-4.4%
希薄化後	703,859	737,463	-4.6%
1株当たり現金配当(単位:ドル)	0.28	0.27	3.7%

**Aflac Incorporated 要約連結損益計算書**  
 (単位:百万ドル。ただし、株式数及び1株当たりの数字を除く—無監査)

**12月31日に終了した12ヶ月間:**

	<b>2020</b>	<b>2019</b>	<b>増減率</b>
収益合計	22,147	22,307	-0.7%
保険金給付金(純額)	11,796	11,942	-1.2%
新契約費及び事業費合計	6,192	5,920	4.6%
税引前当期純利益	4,159	4,445	-6.4%
法人税等	-619	1,141	
当期純利益	4,778	3,304	44.6%
基本1株当たり当期純利益(単位:ドル)	6.69	4.45	50.3%
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	6.67	4.43	50.6%
1株当たり当期純利益計算に用いた普通株式数(単位:千株)			
基本	713,702	742,414	-3.9%
希薄化後	716,192	746,430	-4.1%
1株当たり現金配当(単位:ドル)	1.12	1.08	3.7%

## Aflac Incorporated 要約連結貸借対照表

(単位:百万ドル。ただし、株式数を除く—無監査)

### 12月31日現在:

	2020	2019	増減率
資産:			
運用資産及び現金・預金合計	149,753	138,091	8.4%
繰延新契約費	10,441	10,128	3.1%
その他の資産	4,892	4,549	7.5%
資産合計	165,086	152,768	8.1%
負債及び株主持分:			
保険契約準備金	114,391	106,554	7.4%
社債等及びリース負債	7,899	6,569	20.2%
その他の負債	9,237	10,686	-13.6%
株主持分	33,559	28,959	15.9%
負債及び株主持分合計	165,086	152,768	8.1%
期末発行済普通株式数(単位:千株)	692,454	726,793	-4.7%

## 米国会計基準(GAAP)外の財務指標

本書には、アフラックの米国GAAP外の基準による財務指標である調整後利益、希薄化後1株当たり調整後利益、調整後株主資本利益率、調整後投資収益(純額)、ヘッジ費用/収益の償却額及び調整後純資産額への言及が含まれている。これらの指標は、米国GAAPに沿って計算されていない。これらの指標は、全般的な経済情勢や事象に影響され、あるいは保険事業に直接関係しない数少ない取引に関連する傾向にあるため、保険事業の基盤や傾向を必ずしも正確に反映していない可能性があるため当社が考える項目を除外したものである。当社経営陣は、アフラックの連結ベースの保険事業の財務業績を評価するにあたっては、調整後利益、希薄化後1株当たり調整後利益及び調整後株主資本利益率を用いている。また、これらの指標を表示することは、アフラックの保険事業に内在する利益の原動力や傾向を理解するに際して、極めて重要であると当社経営陣は確信している。当社は、調整後利益の要素であるヘッジ費用/収益の償却額は、一部の為替変動リスクのヘッジに係る定期的な為替リスク管理費用/収益を計測するものであり、投資収益(純額)の重要な要素であると確信している。当社は、経営のコントロールが及ばない市場動向によって変動するその他の包括(損)益累計額(AOCI)を除外するという点で、調整後純資産額は重要なものであると考えている。また、当社の投資及びこれに関連するヘッジ戦略に係る費用と収益のより包括的な理解を提供することから、当社は、調整後投資収益(純額)を重要な指標と考えている。当社の米国GAAP外の財務指標の定義及びこれらに最も比較可能な米国GAAPの指標との調整については、下記及びこれに続く表に記載されている。

日本円を機能通貨とするアフラック(日本)の規模が大きいため、円/ドル為替レートの変動は当社の報告業績に対して著しい影響を与え得る。円安に推移する期間においては、円貨のドル貨への換算においてはより少ないドル貨で報告される。円高に推移する期間においては、円貨のドル貨への換算においてはより多くのドル貨で報告される。このように、円安は、前年同期との比較において当期の業績を押し下げ、円高は、前年同期との比較において当期の業績を押し上げる効果がある。当社の事業の非常に大きな部分が円で行われており、米国GAAPによる報告の目的のために、これがドルに換金されることはないものの、ドルに換算されることから、為替変動は、米国GAAPに基づく利益、キャッシュ・フロー及び純資産に影響を与える。また、為替レートは経営のコントロール外にあるため、アフラックは、日本円を米ドルに換算することの影響を理解することは重要であると確信している。当期における為替変動の影響を除く調整後利益、希薄化後1株当たり調整後利益及び調整後株主資本利益率は、全て比較の対象となる前年同期における平均円/ドル為替レートを用いて計算されており、円/ドル為替レートの変化のみによってもたらされる変動を消去したものである。平均円/ドル為替レートは、株式会社三菱UFJ銀行が公表する対顧客電信仲値(TTM)に基づいている。

当社は、本書に含まれている米国GAAP外の財務指標を以下の通り定義している。

・調整後利益は、調整後収益から保険金給付金及び調整後費用を差引いたものである。収益及び費用に対する調整は、予測不能あるいは経営のコントロールが及ばない一部の項目から構成される。調整後収益は、外国為替のエクスポージャーへの管理戦略及び特定の投資戦略によるデリバティブからの金利キャッシュ・フロー(純額)に係るヘッジ費用/収益の償却額以外の資産運用損益(純額)を除いた米国GAAPベースの収益合計である。調整後費用は、社債等に係るデリバティブからの金利キャッシュ・フローへの影響を含み、当社の保険事業の通常の業務に関係せず当社の基礎となる業績を反映しない非経常的損益ならびにその他の損益を除く、米国GAAPベースの新契約費及び事業費の合計である。これと最も比較可能な米国GAAPの指標は、当期純利益である。

・1株当たり調整後利益(基本あるいは希薄化後)は、当該期間の調整後利益を期中の加重平均発行済株式数(基本あるいは希薄化後)で除したものである。これと最も比較可能な米国GAAPの指標は、1株当たり当期純利益である。

当期における為替変動の影響を除く調整後利益は、比較対象の前年同期における平均為替レートを用いて計算されており、これにより、為替レートの変化のみによってもたらされる変動を消去している。これと最も比較可能な米国GAAPの指標は、当期純利益である。

当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益は、当該期間の為替変動の影響を除く調整後利益を期中の加重平均発行済株式数(希薄化後)で除したものである。これと最も比較可能な米国GAAPの指標は、1株当たり当期純利益である。

・調整後株主資本利益率は、当期の調整後利益を、AOCIを除く平均株主持分で除したものである。これと最も比較可能な米国GAAPの財務指標は、平均株主資本利益率(ROE)であり、これは当期純利益と平均株主持分を用いて決定される。

・為替変動の影響を除く調整後株主資本利益率は、為替変動の影響を除く当期の調整後利益を、AOCIを除く平均株主持分で除したものである。これと最も比較可能な米国GAAPの財務指標はROEであり、これは当期純利益と平均株主持分を用いて決定される。

・調整後投資収益(純額)は、投資収益(純額)に以下の調整を加えたものである。i). 外国為替のエクスポージャーへの管理戦略及び特定のデリバティブ活動に関連するヘッジ費用/収益の償却額、ii). 特定の投資戦略に係る為替及び金利デリバティブからの金利キャッシュフロー(純額)のうち、資産運用(損)益(純額)から投資収益(純額)に区分変更されたもの。これと最も比較可能な米国GAAPの指標は、投資収益(純額)である。

・ヘッジ費用/収益の償却額は、当社の日本セグメント及び全社(アフラック(日本)及びアフラック(米国)を除く)及びその他セグメントにおける、一部の為替リスクをヘッジするために為替デリバティブを用いた結果生じる、あるいは認識されるものである。これらのヘッジ費用/収益の償却額は、個々の契約に固有の条件に基づくデリバティブの取引開始時に評価され、ヘッジ期間にわたって、定額で認識される。ヘッジ費用/収益の償却額と比較可能な米国GAAPの財務指標はない。

・調整後純資産額は、米国GAAPに基づく純資産額(株主持分合計)から、米国GAAPに基づき貸借対照表に記録されたAOCIを控除したものである。これと最も比較可能な米国GAAPの指標は、純資産合計である。調整後純資産額は、経営のコントロールの及ばない市場の動向によって変動するAOCIを除いていることから、当社はこの指標は重要であると考えている。

・普通株式1株当たり調整後純資産額は、当該期末の調整後純資産額を当該期末の発行済普通株式数で除したものである。これと最も比較可能な米国GAAPの指標は、普通株式1株当たり純資産合計である。

・外貨換算未実現(損)益を含む調整後純資産額は、調整後純資産額に外貨換算未実現(損)益を加えたものである。これと最も比較可能な米国GAAPの指標は、純資産合計である。

・外貨換算未実現(損)益を含む普通株式1株当たり調整後純資産額は、当該期末の調整後純資産額に外貨換算未実現(損)益を加えた金額を当該期末の発行済普通株式数で除したものである。これと最も比較可能な米国GAAPの指標は、普通株式1株当たり純資産合計である。

**当期純利益から調整後利益への調整<sup>1</sup>**  
 (単位:百万ドル。ただし、1株当たりの数字を除く—無監査)

**12月31日に終了した3ヶ月間:**

	<b>2020</b>	<b>2019</b>	<b>増減率</b>
当期純利益	951	782	21.6%
調整後利益への調整項目:			
資産運用損(益)(純額)	-268	-34	
その他及び非経常的損(益)	13	-	
調整後利益への調整項目に係る法人税(軽減額)費用	52	12	
税務に係る評価引当金の取崩し <sup>4</sup>	7	-	
税制改革による調整 <sup>5</sup>	-	-4	
調整後利益	755	756	-0.1%
当期における為替変動の影響 <sup>2</sup>	-14	非適用	
当期における為替変動の影響を除く調整後利益 <sup>3</sup>	741	756	-2.0%
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.35	1.06	27.4%
調整後利益への調整項目(単位:ドル):			
資産運用損(益)(純額)	-0.38	-0.05	
その他及び非経常的損(益)	0.02	-	
調整後利益への調整項目に係る法人税(軽減額)費用	0.07	0.02	
税務に係る評価引当金の取崩し <sup>4</sup>	0.01	-	
税制改革による調整 <sup>5</sup>	-	-0.01	
希薄化後1株当たり調整後利益(単位:ドル)	1.07	1.03	3.9%
当期における為替変動の影響 <sup>2</sup> (単位:ドル)	-0.02	非適用	
当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益 <sup>3</sup> (単位:ドル)	1.05	1.03	1.9%

<sup>1</sup>端数処理のため合計は計数の総和と必ずしも一致しない。

<sup>2</sup>為替変動については、その影響額を当期に限定するため、前期の影響額は「非適用」とした。

<sup>3</sup>当期における為替変動の影響を除く金額は、比較対象の前年同期における平均為替レートを用いて計算されており、これにより、為替レートの変化のみによってもたらされる変動を消去している。

<sup>4</sup>当四半期の法人税費用は、外国税額控除に係る繰延税金に対する評価引当金の取り崩し額に対する申告額と費用計上額の調整を表している。

<sup>5</sup>内国歳入庁により追加のガイダンスが公表された結果、税制改革による影響については、2019年に調整が行われた。

**当期純利益から調整後利益への調整<sup>1</sup>**  
 (単位:百万ドル。ただし、1株当たりの数字を除く—無監査)

**12月31日に終了した12ヶ月間:**

	<u>2020</u>	<u>2019</u>	<u>増減率</u>
当期純利益	4,778	3,304	44.6%
調整後利益への調整項目:			
資産運用損(益)(純額)	229	15	
その他及び非経常的損(益)	28	1	
調整後利益への調整項目に係る法人税(軽減額)費用	-72	-3	
税務に係る評価引当金の取崩し <sup>4</sup>	-1,411	-	
税制改革による調整 <sup>5</sup>	-	-4	
調整後利益	3,552	3,314	7.2%
当期における為替変動の影響 <sup>2</sup>	-31	非適用	
当期における為替変動の影響を除く調整後利益 <sup>3</sup>	3,521	3,314	6.2%
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	6.67	4.43	50.6%
調整後利益への調整項目(単位:ドル):			
資産運用損(益)(純額)	0.32	0.02	
その他及び非経常的損(益)	0.04	0.00	
調整後利益への調整項目に係る法人税(軽減額)費用	-0.10	0.00	
税務に係る評価引当金の取崩し <sup>4</sup>	-1.97	-	
税制改革による調整 <sup>5</sup>	-	-0.01	
希薄化後1株当たり調整後利益(単位:ドル)	4.96	4.44	11.7%
当期における為替変動の影響 <sup>2</sup> (単位:ドル)	-0.04	非適用	
当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益 <sup>3</sup> (単位:ドル)	4.92	4.44	10.8%

<sup>1</sup>端数処理のため合計は計数の総和と必ずしも一致しない。

<sup>2</sup>為替変動については、その影響額を当期に限定するため、前期の影響額は「非適用」とした。

<sup>3</sup>当期における為替変動の影響を除く金額は、比較対象の前年同期における平均為替レートを用いて計算されており、これにより、為替レートの変化のみによってもたらされる変動を消去している。

<sup>4</sup> 2020年に認識された法人税軽減額は、外国税額控除に係る繰延税金に対する評価引当金の取り崩し額を表している。

<sup>5</sup> 内国歳入庁により追加のガイダンスが公表された結果、税制改革による影響については、2019年に調整が行われた。

## 投資収益(純額)から調整後投資収益(純額)への調整

(単位:百万ドルー無監査)

### 12月31日に終了した3ヶ月間:

	<u>2020</u>	<u>2019</u>	<u>増減率</u>
投資収益(純額)	968	886	9.3%
調整後投資収益(純額)への調整項目:			
ヘッジ費用の償却額	-51	-66	
ヘッジ収益の償却額	19	27	
特定の投資戦略によるデリバティブからの金利キャッシュ・フロー(純額)	5	1	
調整後投資収益(純額)	941	848	11.0%

## 投資収益(純額)から調整後投資収益(純額)への調整

(単位:百万ドルー無監査)

### 12月31日に終了した12ヶ月間:

	<u>2020</u>	<u>2019</u>	<u>増減率</u>
投資収益(純額)	3,638	3,578	1.7%
調整後投資収益(純額)への調整項目:			
ヘッジ費用の償却額	-206	-257	
ヘッジ収益の償却額	97	89	
特定の投資戦略によるデリバティブからの金利キャッシュ・フロー(純額)	12	-17	
調整後投資収益(純額)	3,541	3,393	4.4%

## 米国GAAPに基づく純資産額から調整後純資産額への調整<sup>1</sup>

(単位:百万ドル。ただし、株式数及び1株当たりの数字を除く—無監査)

**12月31日現在:**

	<u>2020</u>	<u>2019</u>	<u>増減率</u>
米国GAAPに基づく純資産額	33,559	28,959	
減算:			
外貨換算未実現(損)益	-1,109	-1,623	
保有有価証券及びデリバティブに係る未実現(損)益	10,327	8,515	
年金債務当期調整額	-284	-277	
その他の包括(損)益累計額合計(AOCI)	8,934	6,615	
調整後純資産額	24,625	22,344	
加算:			
外貨換算未実現(損)益	-1,109	-1,623	
外貨換算未実現(損)益を含む調整後純資産額	23,516	20,721	
期末発行済株式数(単位:千株)	692,454	726,793	
1株当たりの米国GAAPに基づく純資産額(単位:ドル)	48.46	39.84	21.6%
減算:			
1株当たりの外貨換算未実現(損)益	-1.60	-2.23	
1株当たりの保有有価証券及びデリバティブに係る未実現(損)益	14.91	11.72	
1株当たりの年金債務当期調整額	-0.41	-0.38	
1株当たりのその他の包括(損)益累計額合計(AOCI)	12.90	9.10	
1株当たりの調整後純資産額	35.56	30.74	15.7%
加算:			
1株当たりの外貨換算未実現(損)益	-1.60	-2.23	
1株当たりの外貨換算未実現(損)益を含む調整後純資産額	33.96	28.51	19.1%

<sup>1</sup>端数処理のため合計は計数の総和と必ずしも一致しない。

## 米国GAAPに基づく株主資本利益率(ROE)から調整後ROEへの調整<sup>1</sup>

(為替変動の影響を除く)

12月31日に終了した3ヶ月間:

	2020	2019
当期純利益 - 米国GAAPに基づく株主資本利益率(ROE) <sup>2</sup>	11.5%	10.7%
外貨換算未実現(損)益を除いた影響	-0.6%	-0.7%
保有有価証券及びデリバティブに係る未実現(損)益を除いたことによる影響	4.6%	4.2%
年金債務当期調整額を除いたことによる影響	-0.1%	-0.1%
その他の包括(損)益累計額(AOCI)を除いたことによる影響	3.9%	3.3%
その他の包括(損)益累計額(AOCI)を除いた米国GAAPに基づくROE	15.5%	14.0%
調整後利益と当期純利益の差異 <sup>3</sup>	-3.2%	-0.5%
報告された調整後ROE	12.3%	13.6%
減算: 為替変動の影響 <sup>4</sup>	0.2%	非適用
為替変動の影響を除く調整後株主資本利益率(ROE)	12.1%	13.6%

<sup>1</sup>端数処理のため合計は計数の総和と必ずしも一致しない。

<sup>2</sup>米国GAAPに基づくROEは、(年換算した)当期純利益を平均株主資本で除して計算されている。

<sup>3</sup>当期純利益から調整後利益への調整については、別表を参照のこと。

<sup>4</sup>為替変動の影響は、損益計算書上のすべての外貨建ての項目を、比較対象の前年同期における加重平均為替レートで再計算して求めている。この影響は、再計算後の調整後利益の、報告された調整後利益に対する差異である。比較の目的で、前期の加重平均為替レートをを用いて当期の損益のみを再計算し、当期における為替変動の影響を消去している。これにより、この財務指標の公平な比較を行うことができる。

## 米国GAAPに基づく株主資本利益率(ROE)から調整後ROEへの調整<sup>1</sup>

(為替変動の影響を除く)

12月31日に終了した12ヶ月間:

	2020	2019
当期純利益 - 米国GAAPに基づく株主資本利益率(ROE) <sup>2</sup>	15.3%	12.6%
外貨換算未実現(損)益を除いた影響	-0.9%	-1.0%
保有有価証券及びデリバティブに係る未実現(損)益を除いたことによる影響	6.2%	3.6%
年金債務当期調整額を除いたことによる影響	-0.2%	-0.1%
その他の包括(損)益累計額(AOCI)を除いたことによる影響	5.1%	2.5%
その他の包括(損)益累計額(AOCI)を除いた米国GAAPに基づくROE	20.3%	15.1%
調整後利益と当期純利益の差異 <sup>3</sup>	-5.2%	-
報告された調整後ROE	15.1%	15.2%
減算: 為替変動の影響 <sup>4</sup>	0.1%	非適用
為替変動の影響を除く調整後株主資本利益率(ROE)	15.0%	15.2%

<sup>1</sup>端数処理のため合計は計数の総和と必ずしも一致しない。

<sup>2</sup>米国GAAPに基づくROEは、(年換算した)当期純利益を平均株主資本で除して計算されている。

<sup>3</sup>当期純利益から調整後利益への調整については、別表を参照のこと。

<sup>4</sup>為替変動の影響は、損益計算書上のすべての外貨建ての項目を、比較対象の前年同期における加重平均為替レートで再計算して求めている。この影響は、再計算後の調整後利益の、報告された調整後利益に対する差異である。比較の目的で、前期の加重平均為替レートをを用いて当期の損益のみを再計算し、当期における為替変動の影響を消去している。これにより、この財務指標の公平な比較を行うことができる。

**為替変動の調整後業績への影響<sup>1</sup>**  
(主要項目の前年同期比増減率—無監査)

**2020年12月31日に終了した3ヶ月間:**

	<b>為替変動の 影響を含む</b>	<b>為替変動の 影響を除く<sup>2</sup></b>
保険料収入(純額) <sup>3</sup>	-0.4%	-3.1%
調整後投資収益(純額) <sup>4</sup>	11.0%	9.4%
保険金給付金及び事業費合計	3.2%	0.4%
調整後利益	-0.1%	-2.0%
希薄化後1株当たり調整後利益	3.9%	1.9%

<sup>1</sup>調整後利益及び希薄化後1株当たり調整後利益については、前記の定義を参照のこと。

<sup>2</sup>為替変動の影響を除く金額は、比較対象の前年同期における為替レートを用いて計算されており、これにより、為替レートの変化のみによってもたらされたドルベースの変動を消去している。

<sup>3</sup>出再保険控除後。

<sup>4</sup>調整後投資収益(純額)については、前記の定義を参照のこと。

**為替変動の調整後業績への影響<sup>1</sup>**  
(主要項目の前年同期比増減率—無監査)

**2020年12月31日に終了した12ヶ月間:**

	<b>為替変動の 影響を含む</b>	<b>為替変動の 影響を除く<sup>2</sup></b>
保険料収入(純額) <sup>3</sup>	-0.8%	-2.3%
調整後投資収益(純額) <sup>4</sup>	4.4%	3.6%
保険金給付金及び事業費合計	0.6%	-0.8%
調整後利益	7.2%	6.2%
希薄化後1株当たり調整後利益	11.7%	10.8%

<sup>1</sup>調整後利益及び希薄化後1株当たり調整後利益については、前記の定義を参照のこと。

<sup>2</sup>為替変動の影響を除く金額は、比較対象の前年同期における為替レートを用いて計算されており、これにより、為替レートの変化のみによってもたらされたドルベースの変動を消去している。

<sup>3</sup>出再保険控除後。

<sup>4</sup>調整後投資収益(純額)については、前記の定義を参照のこと。